

様式 1 〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 6 年 8 月 1 日

東員町議会

教育民生常任委員会

委員長 三林 浩 様

東員町議会 教育民生常任委員会

委員(議員) 伊藤まり

研 修 報 告 書

研修期間	令和 6 年 7 月 30 日 (火) ～ 7 月 31 日 (水) 【2 日間】
研修 (視察) 先	① 岡山県 奈義町 ② 兵庫県 明石市
目的 (テーマ等)	子ども・子育てを取り巻く社会 ① 少子化対策について ② 子育て支援について
資料添付の有無	○ 有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式 1【申し合わせ事項】：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名：伊藤まり〕

研修概要、内容、所感

1. 奈義町 7 月 30 日（火）

【研修概要】

京都府宮津市の議員と合同の研修でした。奈義町の特徴、子育て支援の概要説明から始まり、事前質問に回答いただき、質疑応答で学びました。ニュースで紹介された動画を視聴し、なぎチャイルドホーム見学をさせていただきました。

【内容】

奈義町は平成 14 年住民投票で合併しない選択をしている。

人口の自然減を出生数だけでカバーできず、人口を維持できないので、社会増を目指す、という考え方である。子育て支援策は、そのためのさまざまな取り組みのうちの一つである。

(1) 経済的支援

生まれる前から、出産、子育て、大学に行くまで切れ目のない経済的支援をする。在宅育児をする保護者への支援金、給食費・教育教材費の無料化、高校生には、町内に高校がなく通学費用もかかることから毎年年額 240,000 円支援金を出している。大学生へは奨学育英金として無利子の奨学金を貸し付けている。卒業後に奈義町へ戻ってきて住めば、住んでいる期間は返済しなくてよい。

(2) メンタル的支援、気運の醸成

出産した人にラインで情報配信する。地域の方に愛育委員を委嘱し、愛育委員は健診受診率の向上だけでなく、訪問して地域や行政とのつながりを持たせるために活動する。今年度から心理士によるカウンセリングを導入した。

子育て拠点施設“なぎチャイルドホーム”を開設し、子育てアドバイザーを配置。子育ての悩みを聞いたり、親どうし交流できるようにしている。地域の人でも利用でき、高齢者が子育て援助会員として子どもの預かりサービスをしている。

(3) お仕事コンビニ

お仕事コンビニ事業は、子育てをしながらちょっとだけ働きたい人とちょっとだけ手伝ってほしいという需要をマッチングさせる。子どもの見まもり“こもりん”は、作業場に子どもを連れてきて仕事する時、交代で子どもをみる活動である。

(4) 働く場所づくり(地域課題)

町で工業団地を整備し 16 社入っている。立地が良いわけではないので、やっと売り切った。就労人員 800 名のうち奈義町の人 100 人強。近隣の自治体と協力しながら働く環境整備を進める必要がある。

(5) 住む場所の提供

定住促進のため、町営賃貸住宅を作った。町内で婚姻した若い世代が隣の市に流出せず奈義町にとどまるようにする施策である。奈義町には一番少子化対策に効果があると思われる。

(6) 空き家

奈義町は空き家に手厚い。空き家を買いたい方、空き家の家財の処分などに補助金がある。町が空き家を借り上げてリフォームし、町営賃貸住宅として貸す事業もある。

(7) 教育

令和 6 年から認定こども園を開設し、小学校中学校に A LT を各学年に 1 人常駐させる。もともと演劇的手法を取り入れたコミュニケーション教育をしていた。

(8) 地域カード(ナギフトカード)

行政ポイントカード。全町民が持っている。マネーチャージができるので、給付金をカードに入れ、町内で消費してもらえるようにした。

2. 明石市 7 月 31 日 (水)

【研修概要】

明石市の PR をお聞きした後、(1) 中学校給食無償化 (2) 高校生まで医療費無料化について、事業別に、担当課の方から説明いただきました。事前質問への回答と質疑応答により学びました。最後に、議場を見学させていただきました。

【内容】

(1) 中学校給食無償化事業について

「子どもの夢と心身の健やかな成長を社会全体で応援する」取り組みの一環である。特に教育費の負担が大きい中学生のいる世帯の負担軽減を図ることで、子育て支援及び教育環境の充実に資することが目的である。

中学校給食が始まったのは平成 30 年。給食無償化は令和 2 年度 4 月から実施された。本会議で何度も質問があったが財源確保が難しくてしていなかった。一方、明石市では、第二子以降の保育料を無償化していたが、令和元年 10 月から国の無償化が開始されたため、市単独で無償化に充当していた予算を中学校給食無償化にあてられるようになった。

小学校中学校ともに物価上昇相当分も補助し、2 段階で無償化している。

所得制限は設けていない。食物アレルギーで一切給食が食べられない生徒は現金支給をしている。献立の立て方や食材の納入などは変更していないので、給食の質は変わらない。小学校給食の無償化も求められているが、財源の確保が課題。

(2) 高校生までの医療費無料化

「明石市のすべての子どもたちを、まちのみんなで支える」というのを本気でやっている。明石市は子どもを産んで、安心して育てられるまちに特化する。

明石市は、きちんとサービスが届くようにするという考え方なので、医療費の無料化を実施することになった。明石に住むすべての子どもが安心して医療を受けられるように、所得制限を設けず、平成 25 年 7 月から中学校 3 年生まで、令和 3 年 7 月から高校 3 年生までの医療費の無料化を実施している。「ひとりも取りこぼさない」ように、高校生限定ではなく、高校生世代で住民票があれば対象になると明文化している。効果の測定が難しいが、アンケート調査で良い評価をい

ただいている。また、医師会から、子どもは自分の症状を正しく伝えられず、自分で受診できない。経済的格差による医療の受け取りに差が出ないようにしていると評価をいただいている。

【全体の所感】

小規模自治体奈義町と中核市明石市の少子化対策と子育て支援策を学びました。奈義町では少子化対策事業全体の説明をお聞きし、明石市では二つの事業の説明をお聞きしました。自治体の規模や立地、地域性が違いましたが、成功しているふたつの自治体に共通点があると思いました。

- ① この支援をしたら出生率が上がるというような“決めて”になる事業があるのではなく、地域特性に合う事業、地域課題を解決する事業を、改善しながら継続している
- ② 経済的支援だけでも、コミュニティづくりだけでも出生率は上がらない。子育て世代を取り巻く環境を多面的に分析し、全体的な底上げをしている
- ③ 徹底した行財政改革で費用を捻出している
- ④ 町のみんなで支える仕組みが作られている
- ⑤ 目指すことが明文化されており、町全体で理解されている

以上